



第66回全日本高等学校選手権大会(男子)

Match Result

試合番号 **105**

A 試合会場レポート



■会場 東京体育館(東京) 試合開始: 10:30 試合時間 1:17
観客数 8,000 主審: 廣井 健一 副審: 原 啓之

鹿児島商業高等学校

■監督: 徳重 一昭
■コーチ: 川畑 俊輔

■第1セット出場メンバー

7 津田	10 楠見	6 松島
		11 (仮屋)
3 黒瀬	4 迫田	2 片ノ坂
9 (西)		

()内は交代選手
■リベロ: 8 大浦坂 健太

得点	セット時間	得点
21	1set(23')	25
20	2set(25')	25
20	3set(23')	25

星城高等学校

■監督: 竹内 裕幸
■コーチ: 加藤 元得

■第1セット出場メンバー

6 山崎	5 佐藤	1 石川
10 (滝沢)		
4 武智	2 神谷	3 中根
	13 (北山)	

()内は交代選手
■リベロ: 12 川口 太一

61	Total	75
0	セット数	3

■Match Comment

男子決勝は、2年連続3冠を狙う星城高校と春高初優勝を目指す鹿児島商業高校との一戦となった。

第1セット星城は石川、武智を中心としたサイドからの高さある攻撃、鹿児島商業は黒瀬、松島を中心としたセンターからの速いコンビ攻撃を繰り出し両者一歩も譲らず、終盤まで一進一退の攻防を繰り広げた。19対19から星城は、武智の強烈なジャンプサーブで鹿児島商業のサーブレシーブを崩し、石川のダイレクトスパイク、神谷のブロックなどで鹿児島商業を突き放し石川がスパイクを決め第1セットを制した。

第2セットは序盤に石川、山崎のジャンプサーブでリードした星城が、多彩な攻撃をで粘る鹿児島商業を振り切り2セットを先取した。

第3セット流れを変えたい鹿児島商業であったが、星城リベロ川口の好プレーに阻まれなかなかリズムが掴めない。接戦の中星城は1、2セット同様に武智のジャンプサーブでサーブレシーブを崩しリードした。鹿児島商業も追いすがったが、武智のスパイクでマッチポイントを取った星城は最後、キャプテン石川が豪快にバックアタックを決め熱戦に終止符を打ち、史上初となる高校総体、国体、春高の3タイトル2年連続制覇を達成した。

■Coach Comment: 徳重 一昭(鹿児島商業高等学校)

■Coach Comment: 竹内 裕幸(星城高等学校)

■作成者: 高木 剛

※ 本票の著作権は公益財団法人日本バレーボール協会に帰属します。



第66回全日本高等学校選手権大会(男子)

Match Result



試合番号 **104**

A 試合会場レポート

■会場 東京体育館(東京) 試合開始:17:30 試合時間 1:55
観客数 6,000 主審: 薄井 真知子 副審: 廣井 健一

雄物川高等学校

■監督: 宇佐美 義和
■コーチ: 原 雄太

■第1セット出場メンバー

1 川村	7 山田	10 鈴木
6 鈴木	3 佐藤	2 沼下
	4 (吉田)	

()内は交代選手
■リベロ: 8 佐藤 勇太

鹿児島商業高等学校

■監督: 徳重 一昭
■コーチ: 川畑 俊輔

■第1セット出場メンバー

7 津田	10 楠見	6 松島
	1 (清田)	11 (仮屋)
3 黒瀬	4 迫田	2 片ノ坂
9 (西)		

()内は交代選手
■リベロ: 8 大浦坂 健太

■Match Comment

男子準決勝第2試合はここまで1セットも失うことなく勝ち上がってきた鹿児島商業と、3回戦、準々決勝ともに接戦を制してきた雄物川の対戦となった。

第1セットは中盤まで両者譲らず、エース同士の打ち合いとなった。鹿児島商6番松島の速攻で徐々にリードを広げ、鹿児島商が先取る。

第2セット、序盤からサイドアウトを繰り返し、一進一退のままデュースに。雄物川キャプテン川村の連続スパイク得点で33-31でこのセットを取り、振り出しに戻る。

第3セット、雄物川の攻撃を確実にレシーブし攻撃につなげた鹿児島商が中盤からリードを広げ、安定したディフェンスからセッター片ノ坂のトスワークで連続得点を重ねた鹿児島商が、反撃の隙与えないままこのセットを取り決勝進出に王手をかけた。

第4セット、雄物川はエース川村が要所でスパイクを決め、一度はリードをするものの、鹿児島商はバックアタック、クイックなど多彩な攻撃で点差を縮めて、このセットもデュースに持ちこみ、最後は松島が雄物川の川村をブロックでシャットアウトし、鹿児島商が決勝に駒を進めた。

■Coach Comment: 宇佐美 義和(雄物川高等学校)

■Coach Comment: 徳重 一昭(鹿児島商業高等学校)

■作成者: 山下 亮

※ 本票の著作権は公益財団法人日本バレーボール協会に帰属します。



第66回全日本高等学校選手権大会(男子)

Match Result



試合番号 **103**

A 試合会場レポート

■会場 東京体育館(東京) 試合開始:15:20 試合時間 1:32
観客数 7,000 主審: 栗原 伸裕 副審: 原 啓之

星城高等学校

■監督: 竹内 裕幸
■コーチ: 加藤 元得

■第1セット出場メンバー

6 山崎	5 佐藤	1 石川
10 (滝沢)		
4 武智	2 神谷	3 中根
	13 (北山)	

()内は交代選手
■リベロ: 12 川口 太一

得点	セット時間	得点
25	1set(25')	18
25	2set(25')	21
34	3set(36')	32

東福岡高等学校

■監督: 藤元 聡一
■コーチ: 小藤 稔

■第1セット出場メンバー

9 金子	1 頼金	2 龍
		4 (竹下)
5 永露	7 谷口	3 菰方
12 (井口)		13 (宮崎)

()内は交代選手
■リベロ: 10 井上 創太

■Match Comment

男子準決勝第1試合は、全日本ユース代表の石川祐希を擁す昨年度覇者の星城と、準々決勝の勝利で波に乗る東福岡の一戦。

第1セット、序盤は一進一退の攻防が続くものの、中盤以降は石川の3連続スパイクや連続サーブスペースで星城がペースをつかみ、徐々に東福岡を引き離してセットを先取する。第2セットも、ブロックでワンタッチを取りつなぐバレーで星城がリードする展開が続く。中盤、東福岡も菰方のスパイクで応戦し差を詰めていくものの、序盤に許したリードが大きく追いつくことはできず、星城の2セット連取となる。第3セットは金子のスパイク、ブロックの活躍により東福岡が6点リードして1回目のテクニカルタイムアウトに入る。星城は連続ブロックを含む4連続ポイントで2点差まで追い上げるも、金子のスパイクが冴えわたり再度東福岡がリードを広げる。終盤、星城はリベロの川口の好レシーブが起点となり得点を重ねついに同点に追いつく。デュースにもつれこんだこのセット、最後は星城武智のスパイクが決まり、34対32で星城が決勝に駒を進めた。星城は決勝で、インターハイ、国体、春高で6冠(2年連続3冠)を狙う。

■Coach Comment: 竹内 裕幸(星城高等学校)

■Coach Comment: 藤元 聡一(東福岡高等学校)

■作成者: 明石 直樹

※ 本票の著作権は公益財団法人日本バレーボール協会に帰属します。